

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道
発行日 平成28年10月31日

地域教育活動を通して

校長 小野寺憲治

皆様いかがお過ごしでしょうか。

校庭の桜や白樺の紅葉が見頃を迎えていましたが、24日降り始めからの降雪は12cmとなり、一面の銀世界はやや早い冬の到来を告げるものとなりました。

10月5日、教育計画に沿って行われております総合的な学習の時間を活用し、1学年は「地域交流学习」、2学年は「職場体験学習」を行いました。

1学年では、書道、ロシア語、保健師、けん玉、手話など12講座を開設しました。学習の目的や流れなど、オリエンテーションを行った後、希望調査を行い、受講する講座を決定しました。講座により講師のご家庭に訪問させていただいたり、学校を会場とするなど1日がかかりで交流を進めました。男女合わせて10名のグループは、「男の料理」を受講し、サンマを3枚におろして、それをソテーしたものと、チャーハン作りにチャレンジしていました。もちろん、講師は男性で70歳を過ぎたいわゆる”おじいちゃん”でした。出来映えは？と質問したところ、全員が「美味しいです」と口を揃えての反応が返って来ました。普段、家庭で魚を3枚におろすことなどやったことのない生徒達は実に真剣にその手ほどきを受けての実践だったようです。自らさばき、料理したものを食すということに格別なものがあったと思います。後日、学級毎に体験を発表し合い交流しました。

2学年では、自衛隊、福祉施設、保育園、自動車整備、美容院、建築会社など38カ所もの事業所等に1名から20名近くのグループに分かれての体験でした。今年は生徒のニーズに沿った事業所選びから始まり、38カ所になったとのことです。ダスキンに一人で参加し黙々と作業をこなす生徒や、ラーメン店での体験では最初にラーメンをいただき作業に取りかかるグループもありました。大変美味しくいただいたけれども、ラーメン店の裏側での作業の大変さを知ることができたと感想を書いていました。また、この時期に保育園ではプールの時間があり、そのお世話をしたグループもありました。保育士もいろいろなことをしなければならないことを学び、大変さと仕事をこなす職員の素晴らしさややり甲斐などを肌で感じ取れるものとなりました。

更に、その2週後に2学年のある学級では「道徳の時間 交流月間」において、”働くことの意義について考える”を題材に授業を行いました。前段では、職場体験学習の感想を交流し、続いて何のために働くのか。働くうえで大切なことは何か。事前調査の項目に仕事を選択するときに重視する項目に給料、自分の時間、やりがい、社会貢献などを設け、その結果を座標に表したものを黒板に掲示して授業が始まりました。授業を進める中で働くことの意義について考えを深めていき、給料や自分の時間の割合が減少していき、やりがいや社会貢献へと割合が増えていき、生徒の心の中の変容の様子が見て取れ、職場体験学習がより意義深いものとなりました。

今年度の重点目標は「生徒一人一人が自らの育ちを実感できる教育活動の充実」です。意図的に計画された総合的な学習の時間や道徳の授業、各種行事などを通して生徒個々が自らの成長を実感できる教育活動を工夫することで、より良い成長を遂げることに繋がると確信しています。個々の成長の姿は、廊下掲示のファイルや学級・学年だより等をお知らせしております。今後も生徒一人一人のたゆまぬ成長のために全職員が一丸となり「チーム東陽」の旗印の下、進めて参ります。お世話になりました地域の皆様には心からお礼申し上げます。